

令和7年度 第1回学校運営協議会 議事録

日時：令和7年5月27日（火）
午前9時30分から12時00分まで

場所：静岡中央高校 中会議室

参加者

委員：出席4人、 欠席2人
校長 副校長3人 教頭3人 事務長 主幹

- 1 校長挨拶
- 2 任命状の交付
- 3 自己紹介
- 4 会長及び副会長の選出
- 5 <協議題> 議事進行 会長

1 第1号議案 令和7年度学校経営計画について<校長より説明>

ア 定時制

イ 通信制

委員からの質問：

広域・私立通信制が増加する中で県立通信制の特色にどう打ち出していくのか。

学校側からの回答：

県立の強みとして、学力向上を重視する姿勢、SC・SSW等専門スタッフや外部連携による手厚い特別支援体制、様々な高校経験を持つ教職員による質の高い多様な指導方法、校舎・グラウンド・体育館といった「学校らしい」充実した環境が挙げられる。これらの特色を踏まえ、私立通信制の増加を受け、県立通信制の今後の在り方について検討を始めている。

定時制、通信制ともに生徒の出口保証を最も重要な目標とし、定時制では年次接続の強化、通信制は定時制との接続・連携強化をこれからの学校づくりの重点として取り組んでいく。

第1号議案承認

2 第2号議案 令和7年度コンプライアンス計画について

<定通副校長より説明>

計画の主な柱

1. 不祥事根絶に向けた取り組み
2. 生徒指導に関わる共通ルールについて

3. 人権教育について

委員からは「生徒の人生に関わるような部分もある中で、非常に素晴らしいことだ」との評価があった。また、別の委員からは、子供の家庭での様子が把握しにくくなる中で、先生方との連携が重要であり、先生方の視点から親として気づけなかった点や、どう声をかければ良いかを学んだという感謝の言葉が述べられた。課題は日々出てくるだろうが、改善しながら取り組んでいって欲しいという意見もあった。

第2号議案承認

<報告事項>

1 現状と課題等の報告

<定通：副校長より説明>

質疑応答および意見交換

1. 生涯学習講座の現状と今後について

委員からの質問：学校の校章の由来にもある「県民の生涯学習の観点」に基づき、以前実施されていた生涯学習講座が現在休止中である。今後、どのように考えていくべきか。

学校側からの説明：生涯学習講座はコロナ禍を境に令和4年度から休止が続いている。かつては生徒と地域の方々が共に学び、大人世代との交流を通じて生徒の成長を促す目的があった。町内会などにも案内を出していた。休止の背景には、運営の全て（講座内容の決定、講師選定、経理処理など）を学校が担う体制の負担が大きすぎたことがある。県に現状を働きかけた結果、一時中止となった経緯がある。講座自体の目的や方向性は良いと考えており、再開には学校への過度な負担を避け、県の部署などの協力が必要である。地域の方々と講師として招くなど、地域連携の機会にもなりうる。学校運営協議会からの提言もあれば、県への働きかけに繋げたい。

2. 生徒の学習課題と学校の支援、教員の負担について

委員からの質問：中学校時代の不登校などが原因で学習に遅れや基礎学力不足のある生徒が多い。生徒の約9割が生活面や授業面に配慮が必要な状況で、教員の負担感が大きいと感じるが、現状の支援や教員の負担軽減についてどうか。

学校側からの説明：多くの生徒が様々な困難を抱えており、中学時代の学習の空白が大きく、基礎学力不足から高校の学習でつまづく生徒が見られる。教員は非常に高い負担感を抱えており、生徒への対応には専門性も求められる。SCやSSW、特殊な専門性を持つ教員との連携を図っている。しかし、ゼミ担任は生徒一人ひとりの心に深く関わるため、精神的な

負担も大きい。教員の多忙化やメンタル不調による休職者も少なくない。定時制では定員減に伴いゼミあたりの生徒数が増加しており、以前のような手厚い個別支援が難しくなっている。県からは特別支援学校経験のある管理職を配置するなど配慮はしているが、根本的な人員配置や教員の専門性向上が課題である。

3. 地域との関わりについて

委員からの質問： 地域の人たちとの緩やかな関わりや、居場所カフェでの地域の方との交流について、具体的にどのような関わりを必要と考えているか。地域として協力できることはあるか。

学校側からの説明： 本校の生徒は県内各地から通っており、地域との関わりは学校の所在地だけでなく、生徒それぞれの居住地域にも及ぶ。義務教育の学校と比較して、特定の地域との密接な関係構築が難しい側面がある。現在は、地域の商店や活動している方々との連携や、教職大学院との関わりなどを模索している。まずは文化祭などを通じて学校を地域に知ってもらうことが重要と考えている。また、防災面での地域連携は不可欠であり、具体的な計画を進める必要がある。かつて生涯学習講座で行っていたような、生徒と地域住民が共に学ぶ機会は、生徒にとって大人世代との交流として大きな意義があり、今後の地域との関わり方を構築していく上で重要な視点である。

4. 定時制と通信制の連携（定通連携）について

委員からの意見・提案： 中学校時代に不登校経験のある生徒にとって、高校での毎日登校（定時制）はハードルが高い場合がある。通信制で学校生活や学習に慣れてから、段階的に定時制へ移行するなど、定時制と通信制のより柔軟な連携システム（定通連携）を検討すべきではないか。通信制で一定の単位を取得してから定時制へ移るなどの方法は、生徒の状況に合わせた支援として非常に有効であり、面白いシステムになりうる。

学校側からの関連情報： 定時制に入学しても学校に来られない生徒がおり、日々の授業の遅れが単位修得に影響し、それが連鎖する可能性がある。通信制では週1～2日の登校から始め、短い時間でも学校に来てレポートに取り組むことで自己肯定感に繋がる生徒もいる。1年間かけて中学時代の学習の空白を埋め、学校に慣らしていくことで、全日制（定時制）への移行が可能になる生徒もいると考えられる。

5. 全日制と定時制の併設校について

委員からの意見・提案： 愛知県など他県では全日制と定時制を併設する学校ができており、多様な生徒に対応する上で効果を上げている。静岡県では2課程以上の設置を禁止する

決まりがあるが、この決まりを撤廃し、併設校の設置を検討すべきではないか。これは今後の学校運営を維持していくためにも必要な方向性である。

学校側からの関連情報：他県での事例は承知しており、静岡県の規定がその実現を妨げている状況である。多様なニーズを持つ生徒への対応や、今後の学校の在り方を考える上で、このような併設校の可能性は検討すべきである。県への働きかけや学校運営協議会からの提言も有効となりうる。

この質疑応答を通じて、本校が抱える生徒の多様性への対応、学習支援、教員の負担、地域連携、そして将来的な学校の在り方といった多岐にわたる課題と、それらに対する委員からの提案や学校側の考えが共有された。

<連絡事項>

1 次回の日程について

(1) 第2回…令和7年11月8日(土) 9:30~11:30(予定)

※定時制文化祭

(2) 第3回…令和8年2月上旬